

# 提 言 書

秋葉区長 殿

令和 4 年 3 月 25 日  
新潟市秋葉区自治協議会  
会長 金子洋二

秋葉区自治協議会では、令和 3 年度秋葉区特色ある区づくり予算事業（秋葉区自治協議会提案事業）の一環として、地域の魅力や課題を明らかにし、各種施策につなげていくことを目的として「秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査（事業名：秋葉区民幸福度調査）」を実施いたしました。調査は 52 項目に渡り、その結果からは秋葉区が持つ様々な強みや地域が抱える諸課題が区民の意識を通して明確に見えてきました。秋葉区自治協議会ではこの結果を基に有識者の協力を得て分析を行うと共に、さらなる議論を重ね、下記の諸点を提言としてとりまとめました。

つきましては、新潟市（秋葉区）の施策を形成・実施する中に反映していただきたく、よろしくお願い申し上げます。

尚、調査結果の詳細については添付の調査報告書をご参照ください。

## 記

### 1. 地域の特色を生かした産業振興と起業の促進

#### 調査結果の ポイント

- 仕事が見つかりやすく就業しやすい環境だと思う人はわずか 12%で、思わない人は 38%
- 秋葉区に住み続けたいと思う人の割合は 20 代が最も低い（38%）
- 約 9 割が普段から環境に配慮した生活をしている

従来、雇用環境は都市部において充実し、地方（周辺）には雇用の場や選択肢が乏しいというイメージがありました。これからのまちづくりにおいてはそうした固定概念を打破していく必要があると考えます。職住近接を基本とし、その地域の強みを生かした産業を核として、その周辺産業を育てていくという発想で仕事と経済を育てていくことが重要です。

秋葉区は豊かな自然環境と利便性のよい生活環境を兼ね備え、住民の環境意識も高い特徴があります。また、農業も盛んで、付加価値の高い様々な品目を産出し、新たな特産品の開発（プチヴェール・もち麦など）にも積極的であるという強みもあります。それらの強みから導き出される産業構造としては、環境との共生を基本とし、

第一次産業から第三次産業、次世代エネルギー開発などが連携した共生産業を基盤とし、そこに人とお金が集まるような形が望ましいと考えます。共生テクノロジーに長けた企業の誘致や、自由な発想を持った次世代の起業支援などに力を入れ、価値観を共有する若い世代を惹きつけるような産業振興を進めていただきたいと思います。

また、新しい地場産業（もち麦など）を市全体のブランドとして育てるような支援や、若い世代が子育てをしながら働きやすい環境を整えるなど、周辺施策の充実も併せて進めていくようお願いいたします。

## 2. 支え合いを実感できる仕組みの構築

### 調査結果の ポイント

- 困った人への助け合いが出来ていると思う人が 31%しかおらず、思わないが 20%、どちらともいえない・わからないが 49%
- 高齢者や障がいのある人にとって暮らしやすいと思う人が 29%、思わないが 21%、どちらともいえない・わからないが 50%
- 秋葉区の高齢化率は 31.4%（令和 3 年 3 月・新潟市統計資料）

人口減少と高齢化の急激な進行が地域コミュニティの持続可能な運営に影を落としています。そうした中、今回の調査で明らかになった地域の中の助け合いに対する実感の低さは、個人のくらしと地域コミュニティとの距離が広がっていることを示したものであり、このままでは困った時やいざという時に地域の共助が機能しなくなっていくことが危惧されます。

困っている人を個別に支援する仕組みは重要ですが、支え合いの基盤はそこに住む人々の意識であり、そこに住む地域住民全体の課題であることが共有されていることが本来の姿であると考えます。今こそ、効果的な啓発キャンペーンなどを通して地域住民の意識改革を進めると共に、増加する独居世帯への支援や孤立の防止、現役世代の地域への関与などの諸課題に本格的に着手すべき時であると考えます。これらを配慮した施策の実現をお願いいたします。

## 3. 子育て世代に選ばれる環境づくり

### 調査結果の ポイント

- 子育てや教育に関する施設やサービス、相談できる機会が整っていると思う人は 35%しかいない
- 「安心して子どもを産み育てられる」と「子どもたちが生き生きと育つ環境がある」は、どちらも「思う」「まあ思う」が半分程度に留まる
- 中学生の 77%が「社会のために役立ちたいと思う」としている一方で、そのうちの 33%が「何をしてもかわからない」と答えている（中学生対象調査）

高齢化社会の中で人口バランスを改善していくためには、子育て世代の移住や定住が極めて重要な要素となります。「このまちで子育てをしたい」と思えるようなまちづくりは最も重視されるべき政策課題のひとつであると言えるでしょう。

子育て環境において現在何が不足しているのかを的確に把握するところから始め、公園など子どもたちがのびのびと遊べる場の整備や、児童館など大人の目が届く居場所の確保といった施策の充実をお願いします。

また、子どもの教育現場と地域をつなぐ存在として地域教育コーディネーターの役割に期待が集まっていますが、この人選が極めて重要であると考えます。学校という教育現場を活かして子どもと地域をつなぐだけでなく、地域全体で子どもを育む視点や、子育てを担う若い世代の支援も視野に入れた活動が求められます。子育ての経験がある女性や新しい発想を持つ若い人材の登用も積極的に進めていただきたいと思います。

## 4. 人にやさしい生活インフラの整備

### 調査結果の ポイント

- 「秋葉区の気になること」（自由記述）の頻出ワードの中に「道路」「交通」「歩道」など生活インフラに関する単語が目立つ
- 同じく、商店街の衰退や駅前の人通りの少なさを気にする声が上げられている。

高齢者や子育て世代にとって暮らしやすいまちを実現するためには、人にやさしい生活インフラの確保が欠かせません。秋葉区には歩道が整備されていない道路が多く、歩行者や自転車に配慮した整備が必要です。

また、現役を引退した世代や子育て世代の移住の目的地となるために期待されるのが、増加する空き家や空き店舗の活用です。移住に関心を持つ人々と物件をワンストップでマッチングできるような窓口の強化と、活用を支援する制度の充実が求められます。

## 5. 文化芸術に親しむソフトの強化

### 調査結果の ポイント

- 秋葉区内の文化施設に行ったことがある人が 92%に上る一方で、知的興味や知識能力を伸ばす機会が整っていると思う人は 33%しかない
- 幸せの要素のひとつとしての「文化や生涯学習」への満足度が 29%に留まっている

文化は充実した地域生活の基盤です。その地域ならではの文化を守り受け継ぐと共に、文化の活用や新しい文化との融合を図ることにより、文化的な基盤は形成され

ていきます。秋葉区は美術館や文化会館、図書館などが整備され、ハード面は一定の充足が見られます。ほとんどの住民がそうした施設を活用したことがあるとする一方で、機会についてはまだ実感が乏しく、ソフト面での充実が必須であると考えます。幅広くアイデアを結集すると共に、民間企業や市民の力も大いに活かし、魅力的な地域文化コンテンツの創出を進めていただきたく、お願いいたします。

## 6. 災害に備えた行動を促す

### 調査結果のポイント

- 住んでいる地域が安心して暮らせる地域だと思う人は 78%
- 災害時の避難場所や避難方法を知っている人が 91%に上る一方で、災害に対する備えや話し合いを行っている人は 24%、地域で行われる防災訓練や安全安心の取り組みに参加している人は 41%に留まっている

調査結果からは、防災に関する情報や知識の普及はそれなりに進んでいることが窺えます。一方で、避難訓練への参加や災害に備えた家族・隣人との話し合いなど具体的な行動はまだ限定的です。避難訓練の参加率を可視化したり、家族で楽しんで参加できる訓練のやり方（令和3年度に「きらめきサポートプロジェクト」で取り組んだ「いざ！カエルキャラバン」など）を採用するなど、実際の行動を促す工夫をしていただきますようお願いいたします。

## 7. 幸福度を市の施策の共通目標に

### 調査結果のポイント

- 「住み良い」「住み続けたい」「愛着」「幸せ」の4指標を年代別で比較すると、全てで 25～29 歳の値の低さが目立つ
- 女性は男性に比べて幸福感は 4 ポイント高いが、「住み続けたい」が 13 ポイント、「愛着」が 8 ポイント低い
- 居住地区別の比較では「住み良い」「住み続けたい」の値が低い一方で秋葉区への高い愛着を示しているケースもある

この調査では、秋葉区民が幸福であるかという問いを核として、住みよさ、地域愛着、健康、仕事、助け合い、子育て、文化、環境、安心安全、生活環境など、様々な観点から住民の意識を明らかにすることができました。これらの指標を性別や年代、居住地区などの回答者属性とクロスして分析したところ、「幸せ」「住みよい」「住み続けたい」「愛着」の4指標で若い現役世代の満足度が低いことがわかり、また、その他の世代では「幸せ」と他の3指標とが必ずしも連動していないという現状が見えてきました。これらは、個々の現状分析だけでは見えないことが、「幸せ」を核として様々な角度から総合的に分析することによって明らかになった成果であると考え

ます。

私たちはこの経験から、施策の成果目標の設定や事業評価には施策毎に直接関連のある数的データだけを用いるのではなく、幸福度を中心に様々な指標を用いて横断的に分析できる組織を介在させ、有効性を判断することを提言します。

また、私たちはこの調査から、幸福感が自分の住む地域の特色と結びつくことも重要であることを実感しました。幸せであることが秋葉区の地域資源(里山、歴史、食、花、川、鉄道など)と意識の中でしっかりとリンクすることで、地域への愛着や住み続けたいという意識の醸成につながり、さらには人口の定着や新たな移住者の獲得へとつながるものと考えます。こうしたことを意識した上で内外への情報発信戦略を組み立て、実行していただくようお願いします。